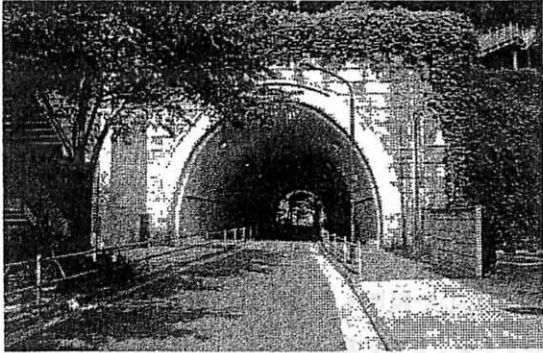




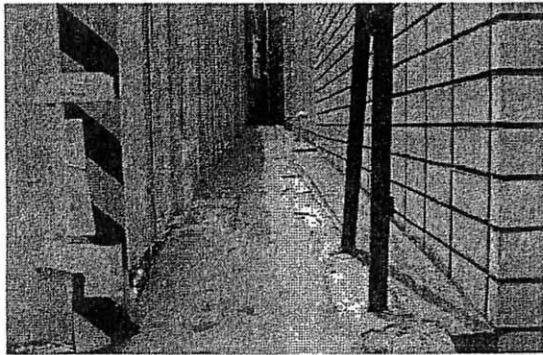
補助のポイント

「犯罪が起こりやすい場所」=誰もが「入りやすく」、誰からも「見えにくい」場所を具体的に理解させます。



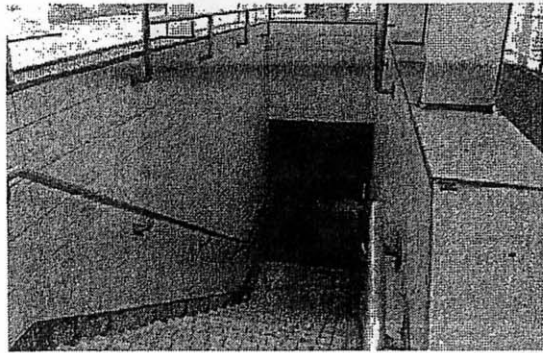
①トンネル

トンネルは、両側から入れるので誰もが「入りやすく」、中は壁に囲まれていて誰からも「見えにくい」場所です。このトンネル構造が、犯罪が起こりやすい場所の基本です。



②建物の間の路地

建物の間の路地は、屋根のないトンネルと言えます。誰もが「入りやすく」、誰からも「見えにくい」場所です。



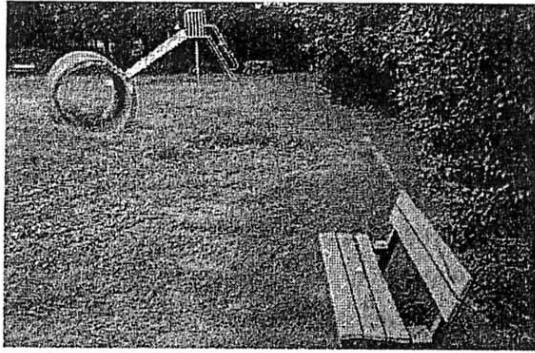
③地下道

地下道は地下に潜ったトンネルと言えます。どちらからでも入れるため、誰もが「入りやすく」、壁に囲まれているため、誰からも「見えにくい」場所です。



④1階がガレージの家が続く道路

1階がガレージとなっている家が続いている道路です。見えやすい場所と思われがちですが、まるで1階部分に塀があるような構造です。つまりこもトンネル構造で、誰もが「入りやすく」、誰からも「見えにくい」場所です。



⑤樹木に囲まれた公園

この公園は入り口が多いため誰もが「入りやすく」、密集した樹木に囲まれているため周りからは「見えにくい」場所です。

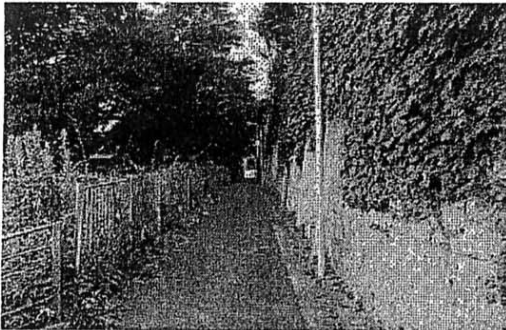


⑥壁の落書き

トンネルは、①で説明したように、物理的に「入りやすく見えにくい場所」です。さらに、そこに落書きがあれば、心理的にも「入りやすく見えにくい場所」になってしまいます。秩序感が薄く、犯罪者も気軽に立ち入ることができ、また、犯罪自体も見て見ぬ振りをされそうだからです。

「見えにくい場所」の4類型

●物理的に見えにくい場所

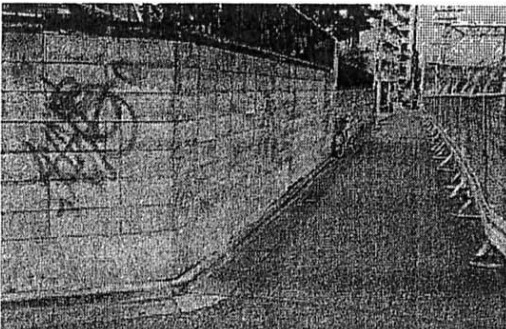


①塀に囲まれている場所のような「死角」



②回りに田畑が広がる場所のような「人の視線が無い場所」

●心理的に見えにくい場所



③落書きやごみが放置されている場所のような「地域が無関心な場所」



④駅前広場のような「不特定多数の人が集まる場所」(関心や注意が拡散してしまう場所)